

旭堂 南海

「旭堂南海還暦独演会」の話芸の成果

(きょくどうなんかい/「きょくどうなんかいかんれきどくえんかい」のわけいのせい)

(第2部門：現代演劇・大衆芸能)

平成元（1989）年に三代目旭堂南陵に入門し、芸歴 35 年を迎えた旭堂南海が自身の 60 歳の誕生日に還暦記念の独演会を開催。圧巻の話芸を見せた。若手の頃から巧さが光り、地道に会を続けてきたが、今回が初の独演会。南海は古典の「難波戦記」から「木村重成血判見届け」と自作の「解体新書誕生！」の 2 席を読んだ。

「木村重成血判見届け」では若い戦国武将・木村重成の生き様を活写し、胸を打つ最期で締めくくった。「解体新書誕生！」は杉田玄白を主人公にした一昨年の初演を改作。ともに解剖書の和訳に取り組んだ杉田玄白と前野良沢の 2 人に焦点をあて、考え方も生き方も真逆な両人の人間像を浮き彫りにして重厚な一席に仕上げた。ウイットに富んだマクラや緩急自在な語りと間で演じた 2 席は出色の出来で、実力を遺憾なく発揮した。

50 代には後世に残すため 10 年をかけて「難波戦記」などの音源を収録する東西随一の偉業を成し遂げた。その功績も併せて大阪文化祭賞を贈呈する。



【略歴】

昭和 39（1964）年 4 月 兵庫県加古川市生まれ。本名:内海浩明（うつみひろあき）
平成 元（1989）年 2 月 3 代目旭堂南陵に入門し、「南海」と名乗る。
平成 元（1989）年 3 月 大阪大学文学部（国文学専攻）卒業
平成 8（1996）年 大阪府より「舞台芸術奨励新人」に指定。
平成 9（1997）年 大阪市主催「咲くやこの花賞（大衆芸能）」受賞
平成 21（2009）年 加古川観光大使（加古川観光協会）に任命。

現在 一般社団法人なみはや講談協会に所属。

講談本来の形「続き読み」を得意とし、これまでに『太閤記（木下藤吉郎編）』（全 40 巻）、『太閤記（羽柴秀吉編）』（全 36 巻）、『難波戦記』（全 40 巻）を収録発売。また、『関ヶ原軍記』（全 34 話）、『祐天吉松』（全 16 話）、『浪花五人男』（全 8 話）も収録し無料公開している。

平成 8（1996）年から毎月 1 回「旭堂南海の何回続く会？」を開催。
目下は『永井源三郎』を読んでいる。